

北庄築城450年記念特別展

越前北庄の城と城下

- 会 場 企画展示室
- 会 期 令和7年5月17日(土)
～7月6日(日)



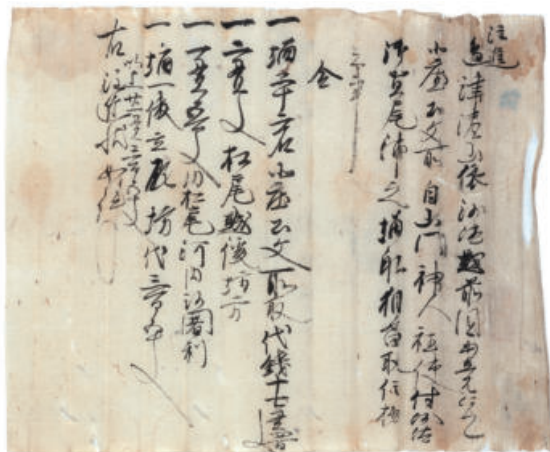
柴田勝家像
柴田修氏蔵 当館保管
※展示は6月15日(日)まで

天正3年(1575)、織田信長は越前国支配の拠点^{きたのしょう}を北庄に定め、重臣の猛将・柴田勝家を城主としました。勝家の築いた北庄城は美しく大変立派な城郭であったとみられ、半石半木の大橋が架かる城下町も信長の本拠安土(滋賀県近江八幡市)をし^{しずがたけ}のぐとされる広大なものでした。天正11年、勝家は羽柴(のち豊臣)秀吉との賤ヶ岳の戦いに敗れ、妻であるお市の方とともに北庄城の天守で最期を遂げました。この天守は「九重」ともいわれる高層建築であったとみられます。その後、秀吉および豊臣政権のもとで北庄の領主はしばしば交代し、慶長5年(1600)に福井藩が成立するまで多くの名だたる武将たちがこの地を治めました。

本展では築城450年を記念し、城下町福井の起源となった北庄城とその城下町についてご紹介します。

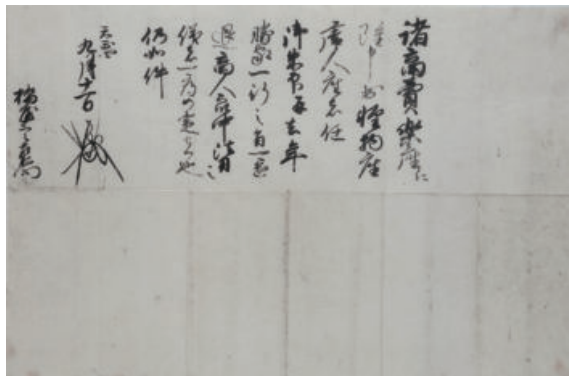
第1章 中世の北庄

越前国の「北庄」という地名を記す現存最古の文書とされる「御賀尾浦塩船盗難物注進状案」^{みかおうら}には、塩を積んだ若狭国の舟がこの地域の近くまで来ていたことが記されています。足羽川^{あすわ}の河川交通と北陸道の陸上交通が交差する北庄の地には南北朝時代に城が築かれ、戦国時代には石場(福井市つくも・足羽一帯)・木田(同西木田・みのり一帯)とともに「三ヶ庄」と総称される地域的まとまりを形成して経済的に栄えました。また、越前朝倉氏が構えた北庄の館では、室町幕府の有力者である細川政元の接待が行われています。柴田勝家による北庄築城以前、この地はすでに越前の要地だったのです。



御賀尾浦塩船盗難物注進状案(重要文化財 大音家文書)
個人蔵 福井県立若狭歴史博物館寄託

第2章 柴田勝家の北庄築城と城下支配



天正3年に織田信長が水陸交通の要地である北庄に城を築くことを命じ、北庄城が築かれると北庄はその城下町として位置づけられました。北庄城主となったのは、信長から越前の大部分を支配することを認められ、北陸方面における織田軍の統率者となった柴田勝家であり、城下町北庄は越前における新たな政治的中心地として繁栄していくことになります。

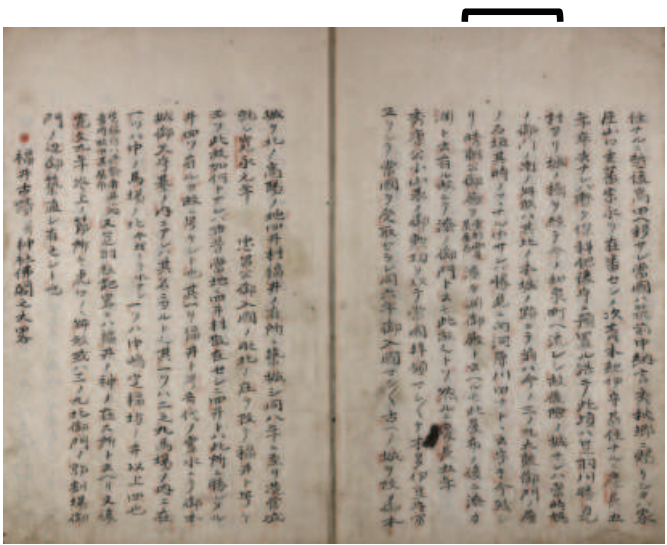
橘屋三郎左衛門尉宛柴田勝家安堵状(福井県指定文化財 橘家文書)
福井県立歴史博物館蔵

第3章 柴田勝家の滅亡とその後の北庄

天正11年、柴田勝家は羽柴秀吉との賤ヶ岳の戦いに敗れ、北庄城で最期を遂げました。その後、秀吉と豊臣政権のもとで北庄の領主は頻繁に交代し、多くの名だたる武将たちがこの地を治めています。のちに北庄の地名は紆余曲折を経て現在の「福井」へと改称されますが、かつてこの地が北庄であった歴史は現在の福井市へと受け継がれています。



越藩拾遺録 松平文庫 福井県文書館保管



越藩拾遺録(坪川家文書) 福井県文書館蔵

江戸時代には「福井城鳩ノ門^{はとのもん}(漆門)南^{ますがた}の舁形(現在の柴田神社のあたり)は柴田勝家時代の北庄城の天守跡」とされ、「福井城太鼓門にはかつて福井築城以前の北庄城の石垣が残っていた」という伝承があった。

第4章 考古資料から見る北庄城

福井市街地では、北陸新幹線の延伸やそれに伴う福井駅周辺の再開発事業等に伴って、福井城跡の発掘調査が進んでいます。その過程で、福井城跡の下層から、柴田期や豊臣期の北庄城のものと見られる遺構や遺物が見つかり、少しずつ北庄城の姿やその城下の暮らしぶりが明らかになりつつあります。



北庄城跡から出土した茶器類
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター蔵



北庄城跡から出土した石垣と板敷き道路
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター写真提供

次回展示予告

松平家史料展示室 企画展 令和の大修理 重要文化財大安寺 6/20(金)~8/17(日)	夏季特別展 松平春嶽と勝海舟 7/19(土)~9/7(日)
---	--

展示解説シートNo.177 令和7年5月17日発行
福井市立郷土歴史博物館
福井市宝永3-12-1 電話 0776-21-0489
担当：中西健太・藤川明宏
印刷：株式会社 宮本印刷